



第41期 中間報告書
[2025.2.21.～2025.8.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



パレモ・ホールディングス株式会社

証券コード:2778



新たな成長に向け、 収益の二本柱体制を確立してまいります

当社グループにおきましては、黒字化からの次なるフェーズへと成長させるべく、3ヶ年の「中期経営計画」をスタートしており、初年度となる前期においては、物価上昇の影響やマーケット環境への対応の遅れから、減収減益という厳しい結果となりました。そして折り返し地点となる今期については、これまでの取り組みを基盤として、アパレルのトップライン向上と雑貨の収益改善に努めるほか、SNSを活用した成長事業への投資を継続するなど、収益の二本柱体制の確立に向けグループをあげて取り組んでおります。

代表取締役社長

香西 雅弘

指針

正しい経営
安定成長

ローコスト経営
人財経営

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第41期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

第41期中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用、所得環境の改善を背景に景気は緩やかな回復基調となりました。その一方で、米国における通商政策の影響や金融資本市場の変動のほか、中東、ウクライナにおける地政学リスクの長期化による世界経済の減速懸念に加え、物価上昇に伴う実質賃金の伸び悩みにより消費者マインドの下振れリスクが高まるなど、依然として景気の先行きは不透明な状況が継続しております。

当社グループが属する専門店業界におきましては、気候変動に対応した商品を増やすなど、販売期間を長く設定した品揃えにシフトし、サステナビリティを意識した在庫抑制の流れから、過剰供給への対応がより一層進む傾向となりました。また、消費行動においては、EC（ネット通販）とリアル店舗の間をシームレスに誘導するOMO（デジタルとリアル融合）への取り組みが進み、SNS活用の必要性も更に高まり、人材の確保と育成が課題となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、コロナ後の社会情勢の変化や当社グループが属する専門店業界を取り巻く競争状況の変化も踏まえ、「中期経営計画」の2年目に

取り組むことで、安定的な収益の二本柱体制（アパレル、雑貨）を確立させるとともに、成長モデルの再構築に向けた取り組みを推し進めるなど、企業価値の向上を目指しております。

当中間連結会計期間は、記録的な猛暑を背景に、アパレル、雑貨における夏物商品の販売が順調に推移したものの、店舗数減少による売上高の減収に加え、賃金の引き上げに伴う人件費等の上昇もあり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益についても、期初の計画を下回る結果となりました。

下期におきましては、上期施策の結果を検証するとともに、収益の改善が進んだアパレルにおけるトップラインの向上と、雑貨におけるマーケット環境の変化に対応した商品MD（マーチャндаイジング）の再構築を図り、EC（ネット通販）をはじめとした成長事業への投資を継続することにより、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

そして当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

Q1 当中間連結会計期間の業績についてお聞かせください

当中間連結会計期間の業績は、売上高71億74百万円(前年同期比8.4%減)、営業利益1億81百万円(前年同期比31.0%減)、経常利益1億75百万円(前年同期比29.9%減)、親会社株主に帰属する中間純利益1億13百万円(前年同期比7.5%増)となりました。

当中間連結会計期間のアパレルにおきましては、全国的に寒暖差が大きく不安定な天候が続いた影響で、春物の伸び悩みと初夏物の立ち上がりに苦戦しましたが、その後は気温が上昇し、梅雨明け以降、猛暑が続いたこともあり、カットソー、パンツなど夏物商品の販売が順調に進みました。

雑貨におきましては、300円の商品を中心に展開する「illusie300(イルーシーサンマルマル)」において、トラベル、モバイル関連の外出需要商品や、紫外線対策、冷感など機能性商品の販売が順調に進んだものの、主力となる生活雑貨商品の伸び悩みから苦戦傾向となりました。その他、物価上昇に伴う節約志向の高まりに加え、酷暑や大雨の影響等により客数が伸び悩んだことから、全社の既存店売上高前年同期比は98.1%となりました。

利益面では、アパレルにおいて、お客様のニーズに応じた品揃えを強化し、プロパー消化率の向上と値下げ販売の抑制に努めたほか、夏物販売の長期化を見据えシーズンMD(マーチャндаイジング)の見直しに取り組んだことにより、一定の成果をあげることができました。一方、雑貨の「illusie300」につきましては、売上高の減収はあったものの、ベンダー構成の再構築に取り組んだ結果、全社の売上総利益率は前年同期に比べ0.5%、期初計画から0.6%上回る53.3%の着地となりました。また経費面におきましては、不採算店舗の退店を継続して実施するほか、本社、本部経費についても徹底した削減に努めた結果、営業経費は前年同期比94.0%となり、金額にして2億31百万円の削減となりました。しかしながら、賃金の引き上げによる人件費の上昇に加え、店舗の契約更新に伴う賃料改定等の影響もあり、営業利益段階で大幅な減益となりました。

店舗の出退店におきましては、アパレルの主要ブランドであるレギュラーサイズの「PALEMO STORE(パレモストア)」,「LUDIC PARK(ルディックパーク)」,ラージサイズの「Re-J & SUPURE(リジェイアンドスプル)」を中心に5店舗、雑貨の主要ブランド「illusie300」を2店舗出店し、不採算店舗のほか、契約満了を含め17店舗を退店した結果、当中間連結会計期間末現在の店舗数は234店舗となりました。

当中間連結会計期間におきましては、想定以上の店舗数減少に加え、雑貨における生活雑貨商品の伸び悩みもあり苦戦傾向となりましたが、この下期におきましては、アパレルにおけるトップラインの向上と雑貨における商品MD(マーチャндаイジング)の再構築を図り、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

Q2 「中期経営計画」における、下期施策についてお聞かせください

下期におきましては、引き続き「中期経営計画」の基本方針である、アパレル、雑貨における収益の二本柱体制の確立に向け、「成長戦略」、「ガバナンス強化」、「社内インフラ/労働環境の改善」の3つについて、重点的に取り組んでまいります。

「成長戦略」につきましては、アパレルの新規出店や既存店舗の改装に合わせ、主要5ブランドへの集約を進めるとともに、EC(ネット通販)との連携強化により、ブランドを軸とした販売体制を構築し、顧客接点の拡充と購買の利便性を高めてまいります。主にレギュラーサイズの「LUDIC PARK(ルディックパーク)」,ラージサイズの「Re-J & SUPURE(リジェイアンドスプル)」へ集約を進めるほか、幅広いニーズへの対応を目的に、Z世代向けブランド「NOEMIE(ノエミー)」,ライフスタイル提案型ブランド「Hare no hi(ハレノヒ)」を組み合わせた複合展開ショップ「PALEMO STORE(パレモストア)」の出店も強化してまいります。この下期からホームページをリニューアルし、鮮度の高い情報発信や越境ECを含む販売チャネルの拡充を図るなど、OMO(デジタルとリアル)の取り組みを一層推進し、アパレル全体のトップライン向上に努めております。

雑貨の「illusie300(イルーシーサンマルマル)」につきましては、価格戦略の見直しに伴い、300円、500円を中心とした値ごろ商品の構成比を高めるとともに、キャラクターコラボ企画の推進により来店客数の向上、競合他社との差別化を図ります。また生活雑貨商品を中心に、競争力を高めるための品揃えの充実を図り、既存店舗の活性化と収益の改善に努めてまいります。

「ガバナンス強化」につきましては、物価上昇の影響や気候変動に対応した、売上連動型の在庫管理を継続してまいります。アパレルについては、引き続き安定的な売上、利益確保のための適正な仕入れ・在庫コントロールを行うとともに、在庫回転率を高めることで売場の鮮度維持を図ります。また雑貨については、新規ベンダーとの取り組みによる品揃えの最適化を進めるほか、アウトレット店舗を活用した在庫の活性化にも努めてまいります。

「社内インフラの改善」につきましては、2026年の秋に基幹システムのリリースを予定しており、商品、仕入、発注業務のほか顧客管理など、次世代を見据えた取り組みの準備を進めているところです。また、「労働環境の改善」につきましては、引き続き、人材確保に対応した賃金の引き上げや処遇改善を推進するほか、業務効率の改善についてもデジタルツールを活用しながら着実に進めてまいります。

以上、この下期におきましては、引き続きマーケット環境変化への対応、物価上昇に伴う節約志向の高まり等、厳しい環境が続くことを前提に、今期の業績予想につきましては、売上高141億60百万円(前年同期比5.9%減)、営業利益2億30百万円(前年同期比7.0%増)、経常利益2億20百万円(前年同期比35.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1億30百万円(前年同期は47百万円の純損失)を見込んでおります。

アパレルの概況

General Condition of Apparel Business

ブランド展開



LUDIC PARK ルディックパーク

最新トレンドからベーシックまで、エイジレス・シーンレスに使えるアイテムを、リーズナブルプライスでトータル提案します。フェミニン系、モード系、ストリート系…多様なテイストを取り入れた最旬スタイルを、バリエーション豊富にピックアップ。



Re-J & SUPURE リジェイ アンド スプル

細見えと着心地にこだわったプラスサイズ(LL~4Lサイズ)専門ブランドです。フェミニン&カジュアルをテーマに、通勤系のきれいなアイテムからトレンドを取り入れたカジュアルアイテムまで幅広くラインナップ。

アパレルにおきましては、適正な仕入れ・在庫コントロールが確立され、物価上昇の影響や気候変動に伴う厳しい環境下においても安定的な売上、利益を確保できております。

新規出店におきましては、「PALEMO STORE(パレモストア)」「2店舗」、「LUDIC PARK(ルディックパーク)」、「Hare no hi(ハレノヒ)」、ラージサイズの「Re-J & SUPURE(リジェイアンドスプル)」をそれぞれ1店舗実施するなど、主要ブランドへの集約を進めております。

この下期におきましても、改装による既存店舗の活性化を積極的に進めるとともに、引き続きOMO(デジタルとリアル融合)の取り組みを推進し、更なる利益改善とトップラインの向上に努めてまいります。



NOÉMIE ノエミー

普段も特別な日も可愛いしたい。扉を開くたびに“ときめきを感じる”お洋服でクローゼットをいっぱいになりたい。そんなあなたの願いに寄り添えるように。“愛らしくて 愛嬌のある 魅力的な女の子”をテーマに、お砂糖菓子みたいな甘さとちょっぴりダークで可愛らしさのあるワードローブを提案します。

アパレルブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当中間連結会計期間末店舗数
レギュラー店舗	4	6	0	91
パレモストア	2	0	1	4
ルディックパーク リルデシュシュ 他	1	3	1	38
リシェリエ、ドスチ ギャルフィット、スズタン 他	0	3	△2	42
ホ糸土・ハレノヒ	1	0	0	5
ノエミー	0	0	0	2
ラージサイズ店舗	1	0	0	11
アパレル合計	5	6	0	102

注：当中間連結会計期間末店舗数に催事店舗は含まれておりません。

雑貨の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business



PALEMO STORE パレモストア

「LUDIC PARK」・「Re-J&SUPURE」・「NOÉMIE」・「Hare no hi」のうち、複数ブランドを展開するショップです。ブランドの垣根を越えて様々な商品を取り揃えることで、幅広い品揃えの中からお買い物を楽しまいいただける空間を提供します。



Hare no hi ハレノヒ

素材とシルエットにこだわったストレスフリーでリラックス感のある「大人の日常着」と、日々の生活に彩りと癒しを与える「生活雑貨」をラインナップし“いくつになっても自然体でいたい”大人の女性のライフスタイルを提案します。

Lilou de chouchou リルデシュシュ エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながら、ON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる、上品で女性らしいファッションを提案します。

Recherie リシェリエ 「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

GAL FIT ギャルフィット 「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

SUZUTAN スズタン 「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。



illusie300

イルーシーサンマルマル

毎日を彩る“小さなうれしい”をぎゅっと詰め込み、300円を中心とした手に取りやすいバリュープライスで、“もっと可愛く もっと便利に もっと手軽に”毎日の暮らしに寄り添うような雑貨を提案します。

INCENSE

インセンス

デイリー、アウトドア、ビジネス、トラベル…様々なシーンにフィットした“持つだけで気分が上がる”バッグや小物を、幅広いラインナップと豊富な品揃えで提案します。

雑貨の主要ブランドである「illusie300（イルーシーサンマルマル）」におきましては、生活雑貨商品を中心に品揃えの充実を図り、収益の改善に注力しております。

新規出店におきましては、「illusie300」の2店舗となりましたが、正規契約を見据えた短期契約での催事出店を3店舗実施するほか、既存店舗の改装を3店舗実施するなど、出店強化と既存店舗の活性化にも努めております。

この下期におきましても、引き続きマーケットニーズに適応した商品MD（マーチャンダイジング）の再構築を図るとともに、キャラクターコラボ企画の推進により、更なる収益の改善を目指してまいります。

雑貨ブランド別の状況

（単位：店舗）

	出 店	退 店	ブランド転換	当中間連結会計 期間末店舗数
イルーシーサンマルマル	2	10	0	122
イ ン セ ン ス	0	0	0	9
雑 貨 合 計	2	10	0	131
複 合 店（※）	0	1	0	1
全 社 合 計	7	17	0	234

（※）複合店とは、アパレル、雑貨のブランドを複数合わせた店舗です。

中間連結財務諸表

Financial Statements



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 (2025年8月20日現在)	前中間連結会計期間 (2024年8月20日現在)	前連結会計年度 (2025年2月20日現在)
■資産の部			
流動資産	4,444	5,351	4,435
固定資産	2,586	2,610	2,553
有形固定資産	623	598	580
無形固定資産	161	32	143
投資その他の資産	1,801	1,980	1,828
資産合計	7,030	7,962	6,988
■負債の部			
流動負債	3,366	5,703	3,271
固定負債	1,985	525	2,137
負債合計	5,351	6,228	5,408
■純資産の部			
株主資本	1,669	1,720	1,567
資本金	100	100	100
資本剰余金	2,205	2,220	2,220
利益剰余金	△634	△594	△747
自己株式	△1	△5	△5
新株予約権	9	13	13
純資産合計	1,679	1,733	1,580
負債純資産合計	7,030	7,962	6,988

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 [2025年2月21日から 2025年8月20日まで]	前中間連結会計期間 [2024年2月21日から 2024年8月20日まで]
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	99	88
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△129	△27
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△157	△499
現金及び現金同等物の増減額	△186	△438
現金及び現金同等物の期首残高	2,044	2,945
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,857	2,506

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

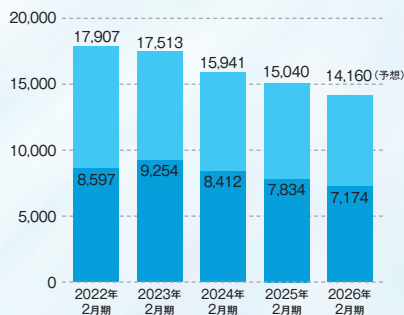
	当中間連結会計期間 [2025年2月21日から 2025年8月20日まで]	前中間連結会計期間 [2024年2月21日から 2024年8月20日まで]	前連結会計年度 [2025年2月20日まで]
① 売上高	7,174	7,834	15,040
売上原価	3,353	3,701	7,144
売上総利益	3,820	4,133	7,896
販売費及び一般管理費	3,639	3,870	7,681
② 営業利益	181	262	214
営業外収益	6	6	21
営業外費用	11	19	73
経常利益	175	249	162
特別利益	-	2	26
特別損失	40	162	228
税金等調整前中間(当期)純利益又は純損失(△)	134	89	△38
法人税、住民税及び事業税	5	6	12
法人税等調整額	15	△21	△3
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は純損失(△)	113	105	△47

POINT

- 売上高は前中間連結会計期間に比べ6億60百万円減少の71億74百万円となりました。これは主に、営業店舗数が前年に比べ大幅に減少したことに加え、雑貨の売上が伸び悩んだことによるものです。
- 営業利益は前中間連結会計期間に比べ81百万円減少の1億81百万円となりました。これは主に、営業店舗数の減少による売上高の減収に加え、人件費、販売費等の上昇によるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、99百万円の収入となりました。これは主に、売上債権2億91百万円の増加があったものの、税金等調整前中間純利益1億34百万円の計上に加え、仕入債務1億44百万円の増加、減価償却費64百万円の非資金項目の調整によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、1億29百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億11百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、1億57百万円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出1億42百万円によるものです。

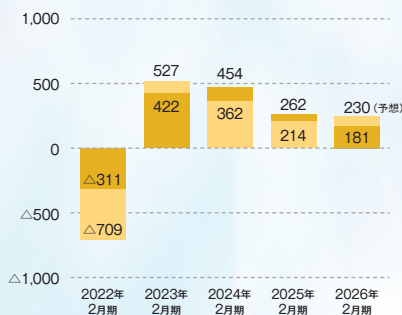
売上高 (百万円)

■中間期 ■通期



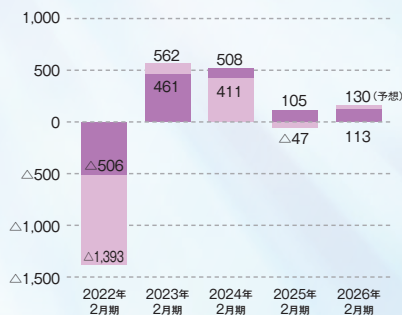
営業利益(損失) (百万円)

■中間期 ■通期



親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益(損失) (百万円)

■中間期 ■通期



会社概要 (2025年8月20日現在)

社 名	パレモ・ホールディングス株式会社
設 立	1984年11月22日
資 本 金	1億円
本 社 所 在 地	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号 名駅錦橋ビル6F
従 業 員 数	1,322名(グループ含む) (ナショナル社員124名、エリア社員他1,198名)
事 業 内 容	事業子会社の経営管理等
ホ ー ム ペ ー ジ	https://palemo.co.jp/

役員 (2025年8月20日現在)

代表取締役社長	香 西 雅 弘
取締役	増 田 仁 敬
取締役	笹 野 信 行
取締役	永 田 昭 夫
取締役	田 村 富 美 子
常勤監査役	福 井 正 弘
監査役	今 枝 剛
監査役	川 口 直 也

注:取締役のうち、永田 昭夫、田村 富美子の両氏は社外取締役であります。
監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2025年8月20日現在)

発 行 可 能 株 式 総 数	普 通 株 式	27,350,000株
	A 種 優 先 株 式	10,000株
発 行 済 株 式 の 総 数	普 通 株 式	12,051,384株
	A 種 優 先 株 式	265株
株 主 数	普 通 株 式	9,099名
	A 種 優 先 株 式	1名

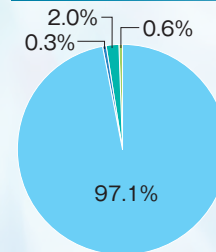
注: A種優先株式は、2024年4月30日付けで近畿中部広域復興支援投資事業
有限責任組合から、株式会社西松屋チェーンへ譲渡されました。

大株主 (2025年8月20日現在)

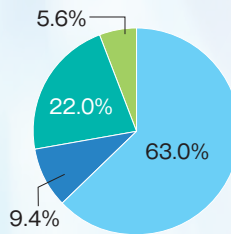
株 主 名	普通株式 持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社西松屋チェーン	2,087	17.33
個人株主A	463	3.85
株式会社SBI証券	353	2.93
GMOクリック証券株式会社	335	2.78
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.37
パレモ従業員持株会	153	1.27
個人株主B	150	1.24
個人株主C	138	1.14
サンラリー株式会社	120	1.00
JP JPMSE LUX RE UBS AG LONDON BRANCH EQ CO	102	0.85

注: 持株比率は、当中間会計期間の末日における発行済株式(自己株式を除く。)の
総数に対する割合であります。

株主構成 (2025年8月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主・その他	8,836名	97.1%
証券会社・金融機関	29名	0.3%
その他国内法人	177名	2.0%
外国法人・個人	57名	0.6%
合計	9,099名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主・その他	7,594,421株	63.0%
証券会社・金融機関	1,134,533株	9.4%
その他国内法人	2,643,321株	22.0%
外国法人・個人	679,109株	5.6%
合計	12,051,384株	100.0%

事業年度 毎年2月21日から翌年2月20日まで

定時株主総会 毎年5月開催

基準日 定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日
中間配当金／毎年8月20日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して
定めた日

公告方法 電子公告により行います。
<https://palemo.co.jp/>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人及び
事務取扱場所 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031

株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

※配当金に関する支払調書

※単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。

株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

株主優待

株式数	継続保有期間	パレモの店舗でご利用いただける 株主様ご優待券贈呈額
300株以上 500株未満	1年以上(注)	2,000円分 (500円券×4枚)
500株以上 1,000株未満		4,000円分 (500円券×8枚)
1,000株以上		10,000円分 (500円券×20枚)

(注)継続保有期間「1年以上」とは、毎年2月20日とその前年の2月20日及び8月20日のすべての基準日において、当社株主名簿に同一株主番号で普通株式3単元(300株)以上の保有が記載または記録されていることといたします。

進呈時期

毎年4月に発送の「定時株主総会招集ご通知」に同封する予定であります。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。